

養育者との関係が自分に与える影響

函館短期大学保育学科2年：岡山美空・工藤小春・高橋ひなた・武内杏樹・木村加奈子

キーワード：愛着、世代間伝達、養育者と子どもの関係

1. 問題と目的

- 養育者と子どもの関係には関心が重要である。よく知られているように養育者が子どもの愛着が形成されるためには、自覚的関与が必要である。
- 出生後一年の間に定着した愛着が形成されるかどうか、将来的に子どもが社会的にも健康的にも育つか決定するかどうかの鍵となる。
- 正常な発達には、エピソードのストレス・シチュエーションにおいて**B2タイプ(安定型)**に分類される子どものことである。

安定した愛着関係を形成できない主な要因
● 元来愛着、子どもへの無関心・放任、ネグレクト、虐待、養育者との怒り・親罰、養育者の情緒不安定等

→子どもは、養育者との愛着を形成できないだけでなく、人に対する社会的信頼感が下がり不安定な子どもとなり、将来的な発達にも悪影響を及ぼす。

前述を踏まえ、
(安定した愛着を形成することが出来ずに苦しんでいる子どもは多いのではないかと感じた。

私たちと重なる部分… 1、怒りとの怒りから友達や恋人に対して離れて行ってしまおうのではないかと不安から自尊心を大きく持ってしまう傾向がある。
2、自分が関心を持てなかった時に養育者が無関心で、そこから親に対する信頼や期待を失くしたが、幼少期は関わりがあったことから、その時に戻るのではという期待感を感じていた。
*他にも、虐待に気付かず、その親子関係を当たり前に感じている家庭も少なくない。

→こうした子どもは怒りに対して認められなかったことで認められたい、自分を見て欲しい、など本来ならば親に対してはよくはない気持ちも強く幸せを感じているのではないだろうか。

↓
◎本研究では、苦しむ子どもを減らすために、**養育者における子どもへの影響を調査した。**
◎**養育者との関係が子どもにどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とした。**

2. 方法

Microsoft社のFormsを用い、養育者との関係を図る匿名のアンケートを実施

- ・対象：A短期大学 保育学科2年生 36名
- ・実施日：令和5年6月8日～6月11日
- ・回収率：72% (36名のうち26名の返答)

※ 倫理委員会として、匿名以外に個人情報は取り扱っていません。アンケートは、調査内容は研究目的のみ使用されること、個人情報が第三者に提供されないこと、調査は適切に実施され研究終了後に廃棄されること等の承諾を行いました。

3. 結果

質問1

あなたは家族(養育者)と仲が良いですか？



良い：13名
まあまあ良い：7名
ふつう：4名
あまり良くない：2名
良くない：0名

質問2

今まで育てられた中でしつけについて満足していますか？



満足している：16名
どちらともいえない：8名
満足していない：2名

質問3

質問2で、「どちらともいえない」「満足していない」と答えた人の中で、家族(養育者)からされて嫌だったこと、言われて嫌だったことはありますか？



はい：10名
いいえ：0名

質問4

質問3で「はい」と答えた人で、その経験が現在でも心に残っていたり、忘れられなかったりしますか？



はい：8名
いいえ：2名

質問5

質問5：質問4で「はい」と答えた人で、答える小さな経験をお話してください。また、その経験があなたにどのような影響を及ぼしたかを教えてください。

<経験談>

- 怒られたら聞かされた。
- 怒られたら、「何を言ってもいい」「別にたけはねばいい」等暴言を吐かれた。
- 交際し人初にしていたカードゲームをすべて没収された。
- 泣かされた。
- 嫌だった。自分の子どもには絶対にしたくない。
- 人のことを忘れなくなった。素直になれなくなった。
- とても悲しかった。

質問6

質問6：その経験が現在のあなたにどのような影響を及ぼしていると思いますか？

- 怒られないようにするために何事も我慢しようと思うようになった。
- ちょっとした音にびっくりしたり、怒鳴り声や暴言を聞くと胸が苦しくなる。
- 自己主張が出来なくなって人の顔を気にしてしまう。
- 人にやさしくなった。

4. 考察

以下の2点が文献等から知られている

- ① 親の生育歴の重要性と子どもの発達の関係
- ② 愛着の世代間伝達を通して子どもが受ける影響は様々

①について

親の生育歴の重要性と子どもの発達の関係

- 養育者の抱える難い影響を与えるものとしては、**精神疾患の有無、生育歴、経済状況(貧困)、社会的サポートの有無**等がある。
- 養育者の精神疾患(うつ状態等)は、保護機能や教育機能の低下により、子どもの発達に影響する。
- 親の生育歴は養育者のパーソナリティや対人関係の技能に影響を与え、それらは子どもにも影響する。
- 子どもの難しい気質から養育者は子どもを否定的に考えるようになり育児負担を強く感じる。

②について

愛着の世代間伝達を通して子どもが受ける影響は様々

- 愛着の世代間伝達は、親がもつ心理・行動的特徴が子どもに伝達されることである。
- 必ずしも安定した親子関係だから安定した子どもになるという訳ではない。



- アンケートの回答より、実際に身体的虐待等と思われることを認められてトラウマになる人、虐待を繰り返して前向きになる人がおり、**愛着の世代間伝達の影響を受ける面、受けにくい面がある**(多様な要因の多様なレベルでの加減作用がある)。

文献

- ・ 足立智昭. 親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達. 本郷一夫・神谷哲司編：子ども家庭支援の心理学. 東京, 建邦社, 2019, pp.49-61.
- ・ Ainsworth, M. D. S., Blehar, M. C., Waters, E., & Wall, S. *Patterns of attachment: A psychological study of the strange situation*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum, 1978.
- ・ 井上果子. 内的ワーキングモデル. 小此木啓吾編：精神分析辞典. 東京, 岩崎学術出版社, 2002, p.377.
- ・ 数井みゆき・遠藤利彦編. アタッチメント：生涯にわたる絆. 東京, ミネルヴァ書房, 2005.
- ・ 数井みゆき. 母子関係を越えた親子・家族関係研究. 遠藤利彦編：発達心理学の新しいかたち. 東京, 誠信書房, 2005, pp.189-214.
- ・ Main, M., Solomon, J. Discovery of an insecure-disorganized/disoriented attachment pattern. In T. B. Brazelton & M. W. Yogman (Eds.), *Affective development in infancy*. Norwood, NJ: Ablex Publishing, 1986, pp.95-124.
- ・ 山下達久. 解離. 氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山絏久・山中康弘編：心理臨床大辞典. 東京, 培風館, 1992, pp.884-885.